

釧路工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	高齢者環境学	
科目基礎情報							
科目番号	0032		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	建設・生産システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書ーなし 参考書ー高齢者のための建築環境 (日本建築学会編) 日本建築学会大会等の予稿・梗概集および論文集				高齢者・障害者を考えた建築設計 (井上書院)		
担当教員	佐藤 彰治						
到達目標							
1. 若年者と高齢者の感覚の相違が理解できる。 2. 高齢者利用に関わる基本知識を理解できる。 3. その計画・設計への応用手法を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	若年者と高齢者の感覚の相違が十分に理解できる。		若年者と高齢者の感覚の相違がある程度理解できる。		若年者と高齢者の感覚の相違がほとんど理解できない。		
評価項目2	高齢者利用に関わる基本知識を十分に理解できる。		高齢者利用に関わる基本知識をある程度理解できる。		高齢者利用に関わる基本知識をほとんど理解できない。		
評価項目3	高齢者に対応した計画・設計への応用手法を十分に理解できる。		高齢者に対応した計画・設計への応用手法をある程度理解できる。		高齢者に対応した計画・設計への応用手法ほとんど理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 C JABEE d-1							
教育方法等							
概要	高齢化が進む社会の中で、それに対応した住宅や公共建築物を計画、設計する上で基本となる「建築環境」のあり方や手法についての専門知識を蓄積し、理解を深めることを目標とする。授業は文献調査と口頭発表・質疑によるゼミ形式とする。						
授業の進め方・方法	本科（建築学科）の「建築計画」「建築環境工学」の基本知識を要する。 4～6回程度のテーマに関するプレゼンテーションおよびレポートを課す。 評価の内訳をレポート(40%)＋口頭発表(20%)＋試験(40%)とし、100点満点中60点以上を合格とする。同点数を最終評価とする。 国内での関連研究の内容や進展などの情報・知識を蓄積して欲しい。 高齢社会のなかで、建築の面から自分で何ができるかを考えてもらいたい。						
注意点							
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス		高齢社会の概要が理解できる。		
		2週	熱と空気的环境)		高齢者に対応した熱・空気環境のあり方、手法が深く理解できること		
		3週	熱と空気的环境				
		4週	音の環境		高齢者に対応した音環境のあり方、手法が深く理解できること		
		5週	音の環境				
		6週	光の環境		高齢者に対応した光環境のあり方、手法が深く理解できること		
		7週	光の環境				
	8週	建築空間と設備		高齢者に対応した建築空間と設備のあり方、手法が深く理解できること			
	4thQ	9週	建築空間と設備				
		10週	高齢者施設の現状		高齢者施設の現状や問題点が理解できる。		
		11週	高齢者施設の現状				
		12週	ユニバーサルデザイン		高齢者に対応したユニバーサルデザインの現状や手法が理解できること		
		13週	ユニバーサルデザイン				
		14週	ユニバーサルデザイン				
		15週	試験				
16週		後期期末試験:実施する					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	0	0	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	40	20	0	0	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0